

# 小羽山30号墓(福井市)

おばやま

小羽山30号墓は前方丘陵の中腹に所在する



ここから登っていく



少し登ると左手が開けてきた



前方に白い標柱が見える





史跡  
小羽山  
30号墓

左手に振り返ると、前方下に小羽山30号墓が見える/説明板も立っている



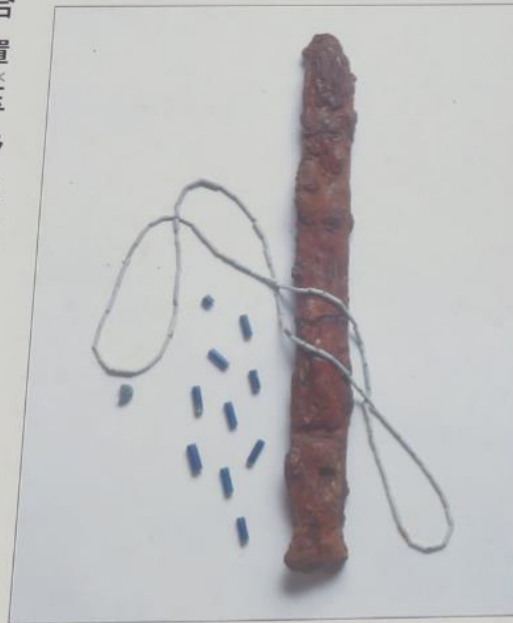
説明板/四隅がヒトデのように飛び出した特異な形が見て取れる/突出部を含めた大きさは33mあり、巨大な弥生時代の王墓で、内部には3.3mの箱型木棺が安置され、鉄剣と多数の首飾りの玉が出土している/造営時期は出土した土器から弥生時代後期中頃の2世紀初頭と考えられ、北陸地方で最も古い四隅突出型墳丘墓と云う/「越の王墓」と言っても言い過ぎではないらしい/貼石、列石はなされていないようだが、出雲の西谷3号墳と同時代の築造で、埋葬に関する祭祀も酷似しているという

## 史跡 小羽山30号墓

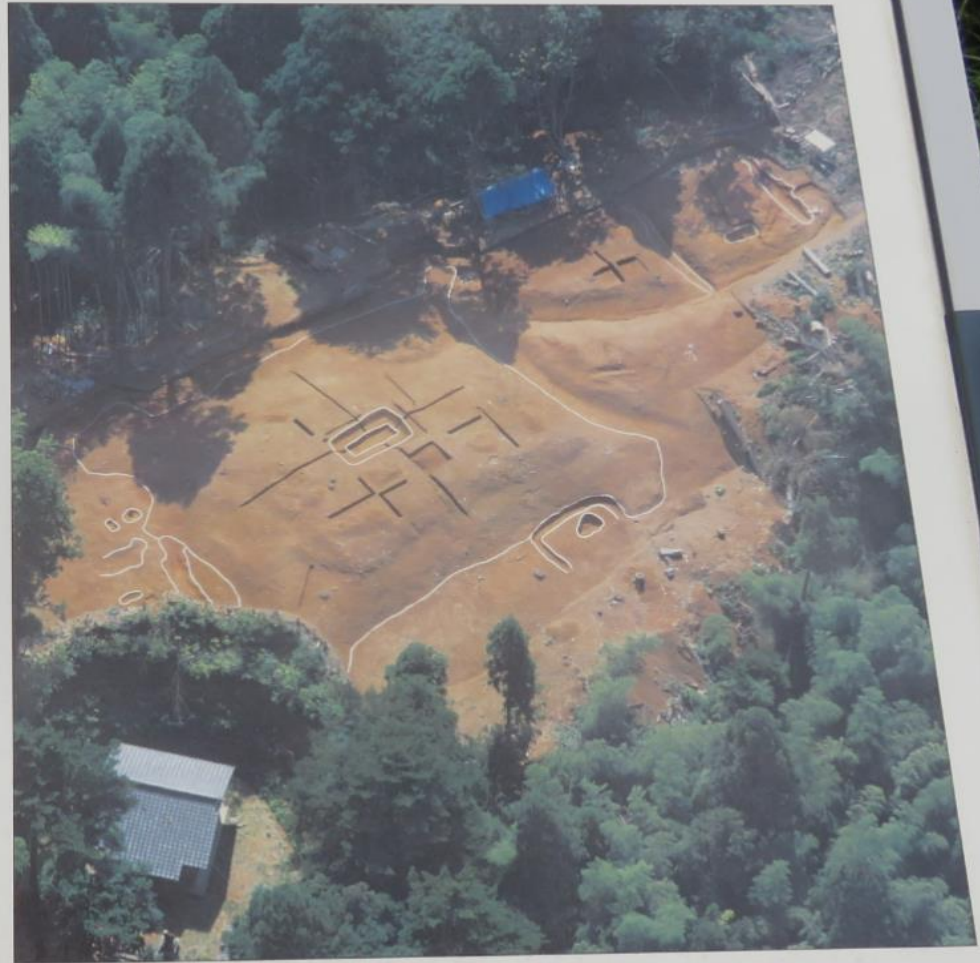
清水町指定文化財第27号  
平成16年6月22日指定

小羽山30号墓は墳丘の長さ27m・高さ2.7mの四隅突出型墳丘墓で、突出部を加えた大きさは28×33mを測ります。墳頂部からはガラス管玉1・朱を磨る儀礼に用いられた石杵1と高杯をはじめとする多量の土器が出土しました。

埋葬は墳丘の完成前に行われ、長さ5.3mの墓壇に長側板の長さ3.7mの組合せの箱型木棺が安置され、副葬品は碧玉製管玉103点・ガラス管玉10点・ガラス勾玉1点・鉄製短剣1点が出土しました。造営時期は出土した土器から弥生時代後期中頃の2世紀初頭と考えられ、北陸地方で最も古い四隅突出型墳丘墓です。



小羽山30号墓の副葬品



小羽山30号墓全景

清水町教育委員会

これが四隅突出型墳丘墓の小羽山30号墓

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)





左手の突出部を見たところ/草が刈りこまれていないので一寸分かりにくい



右手の突出部を見たところ [\(クリックしてビデオを見る\)](#)



四隅突出型墳丘墓とは弥生時代中期以降、吉備・山陰・北陸の各地方で行われた墓制で、方形墳丘墓の四隅がヒトデのように飛び出した特異な形の大型墳丘墓で、その突出部に葺石や小石を施すという墳墓形態となっている/この写真は西谷2号墓(出雲市)



そもそも墳丘墓とはざっくり言って古墳の一種のようなもので、古墳時代(3世紀中頃～)よりも前の弥生時代に築造されたものを墳丘墓と云うようだ/これは四隅突出型墳丘墓の分布図/小羽山30号墓は福井市に所在する/このことから、山陰～北陸にわたる日本海沿岸の文化交流圏が想定されると云う/また、山陰地方東部から北陸地方南部にかけての首長の間には強い結びつきがあり、政治的勢力の同盟関係があったのではないかと推測できるとも云う



ここはすぐ傍に鎮座する今井神社



弥生時代の墓(四隅突出型墳丘墓を含む)約40基と古墳時代の墓(前方後円墳を含む)20基が、この今井神社の背後の小羽山にあるという



この社殿の背後に小羽山30号墓があり、社殿造営のために一部破壊しているようだ/そのタイミングで発見されたのであろう



参考ホームページ

[https://www.city.fukui.lg.jp/kankou/kankou/jouhou/introduce\\_shimizu-30.html](https://www.city.fukui.lg.jp/kankou/kankou/jouhou/introduce_shimizu-30.html)

<http://ktmrj15.webcrow.jp/p18fk/pez18201oba30.htm>



